

シラバス作成ガイド

「より良いシラバスを作成し、教育の質を高めていくために」

【シラバスの役割】

- ・大学設置基準では、「成績評価基準等の明示等（第 25 条の 2）」において、事前に年間の授業計画を学生に示すことを定めており、シラバスの提示は大学及び教員の義務である。
- ・シラバスは、学生が履修科目を選択したり学修計画を立てたりする上でよりどころとなるツールであり、「教員と学生の契約」と位置付けられる。シラバスから逸脱した授業は、学生の学習意欲の低下を招く。
- ・シラバスは学生の学習を支援するためのアウトラインであり、学習の動機づけとなる役割も果たす。学生の主体的な学びを促す重要なツールの一つとしてシラバスの活用が求められている。

【シラバスによる学びの質の向上】

①授業の実施と学生の学習に関して

- ・授業科目とディプロマポリシーとの整合性を保ち、それを明示することで、学生に当該科目での学習の意義をわかりやすく理解させることにつながる。
- ・単位の実質化を図るにあたり、大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間を45時間と定めており、2単位で15回（+試験）行う講義科目であれば、1回の講義に対して4時間程度の授業時間外の学習が必要となる。そのため、授業時間外における予習・復習等の具体的な指示が重要である。
- ・各回の授業内容は、設定した到達目標に学生を導くための実行計画である。シラバス通りに授業を進められることが望ましいが、最終的に目的・目標が達成できるよう、学習の効果を高められるよう授業の進捗状況や学生の理解度等に合わせて適宜見直すことも求められる。授業計画を修正する場合には、学生に対して修正点とその意図を十分に説明することが必要となる。

②学生の学修到達度の測定に関して

- ・学習評価とは、学生の学習到達度を測定し、その結果を返すことで、学生の学習を促すためのものである。「どう学修すればよいのか」を具体的に示す評価方法、評価基準等を設定することで、「客観性」を担保することにもつながる。
- ・課題レポートの場合には、そのレポートに対してどのような基準で評価を行うのか、レポートを採点するときの評価項目を列挙し、それぞれの到達度に基づく評価基準及び評価点を明記する。教員はこの「評価基準」を通して、学生にどのようなレポートを求めているのかを示すことができる。
- ・テストの場合には、そのテストで測定するものを明確に示して、学生に「どのような力を身につけて欲しいのか」を伝えられるように記述する。

③複数担当教員の授業における留意点

- ・オムニバス形式の授業の場合は、学生が授業全体として体系的な学びを意識して学修することができるように、教員間で十分に議論して到達目標や授業計画を設定する必要がある。
- ・複数教員が担当するクラス分け授業の場合は、教員間で成績評価に差が生じないよう、特に具体的かつ客観性のある評価基準を設定する必要がある。

④教育の改善に向けて

- ・教員自身のリフレクションを通して、より良いシラバスを作成していくことにより、教育の質を保証するための継続的な授業改善につながる。
- ・教員間でお互いの授業の目的・目標・内容等を確認・共有することで、学群・学類・コース等での整合性のとれた一貫性のある教育カリキュラム構築につなげることができる。

【シラバス作成におけるチェックポイント】

<授業概要>

学生が理解できるよう、専門用語を多用せず、わかりやすい言葉で記載しているか。

<ディプロマポリシーとの関連>※学群の新カリキュラム科目のみ記載

ディプロマポリシーと当該授業科目との関連を、定められた記号により記載しているか。

「◎」は1つだけになっているか（科目の特性によっては、「◎」が複数となることも可）。

<到達目標>

学生を主語にして記載しているか。

講義によって修得できる知識・能力などについて、学生に明確に伝わるよう具体的に記載しているか。

教員と学生との間で学修到達度の解釈のギャップが生じないように、「～を理解する」「～を学ぶ」といった抽象的な表現ではなく、何が「できる」ようになるのかを具体的に表現しているか。

設定した到達目標は、評価方法・評価基準の欄に記載した評価手法によって評価することが可能な内容となっているか。

ディプロマポリシーとの整合性が保たれた到達目標であるか。

<授業計画>

各回の学習内容が具体的に（同じテーマが続く場合はより詳細な内容も含めて）記載しているか。

到達目標や評価方法・評価基準と齟齬がない内容になっているか。

<評価方法・評価基準>

評価の測定方法・時期、評価配分を明示しているか。

到達目標に掲げた各項目の学修到達度を測定することが可能な評価方法・評価基準となっているか。

評価基準は客観的であり、他者に対しても明確に採点根拠を示せるような内容であるか。

評価基準の詳細についてシラバス内で示すことが難しい場合は、別途学生に示す旨が記載されているか。

<他の科目との関連>

当該科目を履修する前・後に修得しておくことが望ましい科目について、それらの科目との配当年次・学期の順序性の齟齬がなく記載しているか。

<事前・事後学修>

授業時間外における予習・復習等の取組内容を具体的に指示しているか。

大学設置基準で定めている必要な学習時間に達すると見込まれる学習内容となっているか。

<備考（授業形態に関して）>

到達目標を達成するために適切となる授業方法を採用しているか。

シラバス記載要領

	入力項目	記載する内容等
	Course	・科目名の英語表記を確認する。誤りがあれば修正する。
	対象学科	・科目が担当されている学類・コース名と、必修・選択の区別を確認する。誤りがあれば修正する。 (記載例) 地域創生学類地域政策コース(必修), 地域創生学類地域科学コース(選択)
	年次・学期・単位	・履修規程に定められている開講年次, 学期, 単位数を確認する。誤りがあれば修正する。 (記載例) 2年次/前期/2単位
1	授業概要	・授業の概要や「その授業を行うのは何のためか」というカリキュラム上の意義・目的について記載する。
2	ディプロマポリシー(DP)との関連 ※学群の新カリキュラム科目のみ記載	・ディプロマポリシーに示される5要素: 「知識・技術」「思考力・判断力」「表現」「主体性」「協働性」 について、この授業との関連を以下の記号で示す。 ◎: 強く関連するもの, ○: 関連するもの, △: 弱く関連するもの, - : 関連しないもの ・◎は原則として1つとする。 (記載例)【知識・技術:◎】【思考力・判断力:○】【表現:△】【主体性:△】【協働性:-】 ※各学群・学類・コースで作成しているカリキュラムマップとの整合性を保つこと。 ※原則として、学群・学類内でのカリキュラムマップの調整により、変更を要する場合のみ修正する。 ※学群のディプロマポリシーの内容は、学外ウェブサイト(以下 URL)で確認可能。 URL → http://www.myu.ac.jp/soshiki/gakumu/ed0-00.html
3	到達目標	・上記で示した DP との関連を考慮し、学生が「何ができるようになるか」という到達目標を3項目以上記載する。 ・期末の成績は、到達目標に対する学生の学修到達度で評価することとなるので、「・・を学ぶ」といった評価が難しい用語は避ける。 (記載例) 「○○について説明できる」「△△を分析し、その結果を説明できる」「◇◇のための提案を作成できる」
4	授業計画	・上記「到達目標」を達成するために各回の授業で行う内容について、学生が授業準備をしやすくなるよう具体的に記載する。 ・同じテーマが複数回続くときは、副題やキーワードを記載して、できる限り具体的に示すようにする。 ・各授業の回毎に担当教員名を記載する。 ※授業回数は原則15回とする。試験を実施する場合は16回目に記載する。
5	評価方法・評価基準	・期末の成績は、到達目標に対する学生の学修到達度により評価するということを踏まえ、評価方法とその割合、評価基準を記載する。 ・評価方法については、「期末テスト」「レポートや課題の提出」「毎回の授業の小テスト、レポート、レスポンスカード」「プレゼンテーション」「受講者間の相互評価」「授業やクラスへの貢献」など、評価の対象となる要素を示す。(単なる出席状況、出席率などの記載は避ける。) ・評価基準の詳細については、別途、ルーブリック等により、「到達目標」に対して「何が」「どこまで」できるようになったかで評価することを明示し、学生が自ら学修到達度を振り返ることができるよう配慮する。 ※「成績評価に関するガイドライン」を踏まえ、記載すること。
6	教科書	・「授業内で指示する」という表記はせず、必ず具体名を記載する。
7	参考書	・学生が自らの学修を深めることができるよう具体名を記載し、可能であればその使用方法も併記する。
8	他の科目との関連	・この科目の履修前に修得しておくことが望ましい科目や、履修後に修得するのが望ましい科目がある場合はその旨を記載する。 ※各学群・学類・コースで作成している科目連関表との整合性を保つこと。
9	事前・事後学修	・この授業で、各回の授業の事前・事後に必要な学修について記載する。 ※単位の実質化のために、授業外学修時間を確保することが求められている。 ※この授業の履修前後に修得すべき内容ではなく、この科目の各授業回を受ける前後に行うべき予習・復習について記載する。
10	備考	・上記事項以外に事前に周知しておくべき事項があれば記載する。また、学生の主体的な学びが実現できるよう、科目の特性や必要に応じて、アクティブ・ラーニング、フィールドワーク、演習、実験等の授業形態についても記載する。
11	Course Description	・授業に関する英語のキーワードを5単語以内で記載する。
	Teaching staff	・科目担当教員名の英語表記を確認する。誤りがあれば修正する。 (記載例) MIYAGI, Taro/KAZAKAMI, Ibuki/KUROKAWA, Yamato

シラバス記載方法論

[Course] Introduction to Writing Syllabi

[対象学科] 大学教育学類内部質保証コース (必修), 大学経営コース (選択)

[年次・学期・単位] 3年次/後期/2単位

[担当教員] 大城 宮

[授業概要]

カリキュラム上の意義・目的について記すこと。

シラバスは、授業概要や到達目標、授業計画、評価方法・評価基準等の情報を記載したものであり、これによって学生の履修科目の選定や主体的な学修を支援するものである。本講義では、大学デザインとシラバス作成能力の向上を図るため、高等教育における授業計画法について、新カリキュラムのみ記載一部、演習を交えながら論ずる。

[到達目標]は記載要領にならって、箇条書きで3項目以上記載する。

[DPとの関連] 【知識・技術:◎】【思考力・判断力:○】【表現:△】【主体性:△】【協働性:-】

[到達目標]

[1]現在の高等教育システムの中でのシラバスの位置づけとその目的を説明できる

[2]授業計画のマクロ・ミクロな立案手法について説明できる。

[3]よりよいシラバスの条件を理解し、自らの思考により実際に作成

[授業計画]

[01] 大城 宮 ガイダンスーシラバスとは何か？ー

[02] 大城 宮 高等教育におけるシラバスの発展と高等教育方法論の

[03] 大城 宮 授業の骨子と到達目標の立案

[04] 大城 宮 授業計画法(1)ーマクロな構成をどのように決めるべきかー

[05] 大城 宮 授業計画法(2)ー教科書・参考書・授業資料の提供方法ー

[06] 大城 宮 授業計画法(3)ー各授業フローをミクロに考えるー

[07] 大城 宮 授業計画法(4)ー成績評価をどのように行うかー

[08] 大城 宮 よりよいシラバスのための条件 (ゲスト講師: 風上 伊吹)

[09] 大城 宮 授業概要と到達目標の記述方法

[10] 大城 宮 授業計画の記述方法ー1コマ1行で何を与えるかー

[11] 大城 宮 評価基準と評価方法の記述手法

[12] 大城 宮 授業評価と評価基準

[13] 大城 宮 シラバスの提供方法ー紙から電子情報へー

[14] 大城 宮 学生による授業評価とシラバスの改善

[15] 大城 宮 まとめ

[16] 大城 宮 試験

[評価方法・評価基準]

・担当教員氏名を記載すること。
・複数教員の場合は全員分の氏名を記載すること。
・ゲスト講師は、内容欄にカッコ書きで追記する。
・授業回数は原則15回とし、試験を実施する場合は16回目に行くよう記載する。
・試験を実施せずレポートを課す場合は、16回目にしてそのことが分かるよう記載する。
・評価方法が複数の場合は、評価の割合をパーセンテージで明記すること。(「総合的に判断する」は不可)

授業終了時に提出するレスポンスカードによる授業参加への評価 (20%), レポート課題 (3回, 各10%計30%), 期末試験 (50%) による到達目標に対する評価を合計する。詳細な評価項目については、初回講義時にループリック (評価基準表) により示す。

[教科書]大城 宮「大学教員への道」宮城大学出版会

「授業内で指示する」という表記はせず、必ず具体名を記載する。

[参考書]池田輝政ほか「成長するティップス先生」〇〇大学

教科書のみを記載し、その他は参考書欄に記載する。

[他の科目との関連] 事前に「大学教育の基礎」を履修していることが望ましい。

[事前・事後学修]毎回 (最終回を除く) の授業において、復習のための課題および次回のための予習課題を示す。

[備考]各回の授業最後に提示する予習課題をもとに授業を行うので、課題は期限までに必ず提出すること。また課題提出はオンラインにて行う。

アクティブ・ラーニング、フィールドワーク、演習、実験等の授業形態の特徴があれば記載すること。またその他に周知しておくべき事項があれば記載する。

[Course Description]

syllabus, course planning method, lecture planning, evaluation

(記載例)

レイアウトは異なります